

〈 12～24節は割愛 〉

- 25 イスラエルの神、万軍の【主】は言われる。「見よ。わたしは、テーベのアモン、ファラオとエジプト、その神々と王たち、ファラオと彼に頼り頼む者たちを罰する。
- 26 わたしは彼らを、そのいのちを狙う者たちの手に、バビロンの王ネブカドネツアルの手にその家来たちの手に渡す。その後エジプトには、昔のように人が住むようになる——【主】のことば。
- 27 わたしのしもべヤコブよ、恐れるな。 イスラエルよ、おののくな。  
見よ。わたしがあなたを遠くから、 あなたの子孫を捕囚の地から救うからだ。  
ヤコブは帰って来て、だれにも脅かされずに 平穏に安らかに生きる。
- 28 わたしのしもべヤコブよ、恐れるな。 ——【主】のことば——  
わたしが、あなたとともにいるからだ。 わたしは、あなたを追いやった先のすべての国々を滅ぼし尽くす。 しかし、あなたを滅ぼし尽くすことはない。  
ただし、さばきによってあなたを懲らしめる。  
決してあなたを罰せずにおくことはない。」

\* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用

エレミヤ書全体のアウトライン ※①～⑤、⑦は割愛

◆ ⑥エジプトで語られた周辺諸国への言葉（43～51章）

A.43：1～44：30・・・エジプトに寄留する民へのことば（時系列的に最後のメッセージ）

B.45章・・・バルクに関する預言（時系列的には36章の後に来る）

C.周辺の異邦人諸国に対する預言（7区分・9か国のより罪深い諸国へのさばき）

a.46章・・・エジプトに対する預言、b.47章・・・ペリシテに対する預言

c.48章・・・モアブに対する預言、d.49：1～6・・・アモン人に対する預言

e.49：7～22・・・エドムに対する預言、

f.49：23～39・・・ダマスコ、ケダルとハツォル、エラム、g.50～51章・・・バビロンについて



希望の光バプテスト教会

2022年 5月 8日（日）

礼拝メッセージノート

「 エジプトへの預言～諸国へのさばき① 」

エレミヤ書講解・84

エレミヤ書46：1～28ほか

小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 46章 】

- 1 諸国の民について、預言者エレミヤにあった【主】のことば。
- 2 エジプトについて、すなわちユーフラテス河畔のカルケミシュにいたエジプトの王ファラオ・ネコの軍勢について。ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年に、バビロンの王ネブカドネツアルがこれを打ち破った。
- 3 「盾と大盾を整えて、戦いに向かえ。 騎兵たちよ、馬に鞍をつけて乗れ。
- 4 かぶとを着けて配置につけ。 槍を磨き、よろいをまとう。
- 5 何ということか、この有様は。 彼らはおじごい、うしろに退く。 勇士たちは打たれ、うしろも振り向かずに逃げ去る。 恐怖が取り囲んでいる。 ——【主】のことば——
- 6 足の速い者も逃げられない。 勇士たちも逃れられない。 北の方、ユーフラテス川のほとりで、 彼らはつまずき倒れる。
- 7 ナイル川のように湧き上がり、 奔流のように逆巻くこの者はだれか。
- 8 エジプトは、ナイル川のように湧き上がり、 奔流のように逆巻く。 彼は言う。  
『湧き上がって地をおおい、 町も住民も滅ぼそう。』
- 9 馬よ、進め。戦車よ、走れ。 勇士たちは出陣せよ。 盾を取るクシュ人、プテ人、弓を引くルデ人よ。
- 10 その日は、万軍の【神】、主の日、 敵に復讐する復讐の日。 剣は食らって満ち足り、彼らの血に酔う。 北の地、ユーフラテス川のほとりでは、 万軍の【神】、主に、いけにえが献げられる。
- 11 おとめである娘エジプトよ、 ギルアデに上って乳香を取れ。  
多くの薬を用いても無駄だ。 おまえには癒やしがない。

（4ページへ続く）

## ◆はじめに ～世界大に働く神の御手を意識するとき

### 1. 左翼台頭により聖書的価値観が壊れる米国と世界危機の勃発

(1) バイデン大統領当選にまつわる疑惑と、その後の低評価 『アメリカの終わり』中山泉

- ① 大国アメリカへの期待：コロナ禍に続くウクライナ侵攻
- ② 神の預言の成就に向けて：イスラエルを取り巻く異邦人諸国もまた、神の手の上にある。  
\*今は理解できなくても、世界統一政府の実現や患難時代に向かう布石である。  
\*将来、イスラエルを攻める北の連合軍の長は「ロシュ」は、ロシアと理解される。

### 2. 預言者エレミヤの奉仕 ～異邦人とユダヤ人の両者の預言

- (1) エレミヤは、異邦人諸国への預言者としても召されている(1:5)
- (2) まず、ユダヤ人に対して預言をまとめた(2~45章)

## ◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

### | 異邦人もイスラエルの神を見出せ

\*このメッセージは、異邦人が聖書に基づき現実味のある信仰生活を持つためのものである。

=====



## I エジプトの落日(1~12節)

### 1. エジプトの王ファラオ・ネコについて

- (1) 前609年にユダの王ヨシヤを殺した人物。2列23:29
- (2) バビロンに戦いを挑むが、カルケミシュの戦いで敗北(前605年)
- (3) エレミヤはエジプト軍が敗北した後に、この預言を語っている。

### 2. 預言の内容

- (1) ファラオ・ネコの軍勢が戦いの準備をする。すぐに同じ軍が撤退している。  
これが、カルケミシュの戦いでの実際の出来事。
- (2) エジプトの軍勢は恐怖におのき逃げようとしたが、多くの者が戦場で倒れた。
- (3) エジプト軍の構成は、異邦人の傭兵が中心だった。  
\*クシュ人(エチオピア人)、プテ人(リビア人)、ルデ人(リディア人)

### 3. 神のさばき

- (1) アッシリア崩壊後の世界は、バビロンとエジプトの二強が覇権を争う状態。
- (2) 神はエジプトの征服欲を責め、罪と傲慢を裁かれた。  
\*間接的には、対バビロンとして同盟関係を求めるユダに対するさばきでもある。
- (3) この敗北以後、エジプトは決定的に影響力を失い、バビロンが覇権を握る。

## II エジプト侵攻と国外追放(13~24節)

### 1. 神の語りかけ ～次の事態に備えよ 13~19節

- (1) バビロンによる侵攻

- ① エジプト軍内での内輪揉め、戦意や統率力の低下による兵士の逃亡。
- ② ファラオは「好機を逸して騒ぐ(騒がしい)者」と呼ばれる。

### (2) 国外追放

- ① ネブカドネツアルの存在は偉大さの例え：タボル山やカルメル山のように。
- ② エジプト人は「必ず」、国外に追放される。

## 2. 雌の子牛とあぶのたとえ 20~24節

- (1) 「あぶが来たからやって来て、雌の子牛を刺す」
- (2) 意味：「かわいい雌の子牛」(エジプト)を襲うために、北から「あぶ」(バビロン)が攻めて来る。\*つまり、バビロンによるエジプト侵攻と制圧。
- (3) エジプト軍は敗走し、蛇が逃げる時に立てるような音を出して逃げる。
- (4) バビロンは斧で木を次々に切り倒すように、エジプトの人々を薙ぎ払う。  
その軍勢は、無数のいなごのように蹂躞し、エジプトを「完全に」辱める。

## III さばきの後の希望 ～神の御業の素晴らしさ(25~28節)

### 1. エジプトの回復

- (1) イスラエルの神、万軍の主は罰する。
  - ① テーベ※のアモン(テーベの太陽神) ※従来の訳では「ノ」
  - ② ファラオとエジプト ③ その神々や王と、それに依り頼む者たち
- (2) 後の時代になると、エジプトは再び人の住む地に回復する。

### 2. イスラエルの回復

- (1) イスラエルに対しては、補修からの帰還が約束されている。
- (2) 神のさばきは、ご自分の民をきよめるためのものである。
  - ① さばきは喜ばしくないが、その結果を喜ぶことができる。
  - ② イスラエルは回復し、またきよめられる。

## ◆まとめ：異邦人もイスラエルの神を見出せ

- (1) 神は歴史のゴールを用意しており、そこに向かう計画を持っておられる。
- (2) 神の御手はイスラエルを通して、世界に働いておられる。
  - ① イスラエルに対する将来の計画  
\*異邦人クリスチャンとイスラエル ～アブラハム契約
  - ② 大患難時代の救い ～羊とやぎに分けられる異邦人
- (3) 自分たちの心の内にある「エジプト」を取り除く
  - ① 神のことはを字義通り、真摯に受け取れ。  
\*「異邦人の信仰を尊重せよ」という風潮：偶像礼拝は神に妬みを抱かせる。
  - ② 神への傲慢な姿勢をあらため、聖書のことはに真摯に耳を傾けよう。  
\*イスラエルを召した神は、異邦人も愛の内に置いてくださることの感謝。  
\*世界の国々に計画を用意し、個人一人ひとりを覚えてくださる神様に感謝